

中部森林学会設立趣意書

愛知、福井、岐阜、石川、三重、長野、静岡、富山の8県からなる中部森林圏は、富士山や日本アルプスなど日本を代表する山岳地帯の森林から、尾鷲、天竜など古くから林業が営まれてきた森林、持続的に利用されてきた里山、治山事業によって再生された都市近郊林、日本海・太平洋岸の海岸林など多種、多様な森林を擁する、日本の森林の中核をなす森林圏の一つです。中部森林圏の森林は、有史以来、人間に利用、管理、保護、再生されてきた長い歴史があります。

中部森林圏における森林科学の向上ならびに林業の発展を図ることを目的として、1952年に旧日本林学会の支部組織の一つとして日本林学会中部支部が結成されました。中部支部では、毎年、支部大会、研究発表会、見学会等を開催し、自然環境の保全や林産物の供給など森林の仕組みと利活用を考究し、地域の森林・林業の発展と生活・文化の向上に貢献してきました。

近年、林業活性化・国産材利用推進政策の推進、山地における自然災害の発生、名古屋市における生物多様性条約締約国会議の開催などをきっかけとして、中部森林圏の森林への人々の関心は、近年にたく高まっています。しかしその一方で、中部森林圏では、農山村の過疎化・高齢化、林業・林産業の低迷、間伐遅れの人工林の増加、マツ枯れ・ナラ枯れ、野生動物被害、開発による森林減少、遷移の進行による生物多様性の喪失など様々な問題が生じており、適切な対応が取られなければ、森林所有者の利益のみならず、森林の国土保全機能が損なわれ、地域住民や下流の都市住民の公益を損なってしまう可能性もあります。

このような状況を鑑み、私たちは、2011年の日本森林学会の一般社団法人化を契機として、中部森林圏の森林・林業に関する学術研究活動を通じて、森林科学および林業の発展ならびに環境保全技術の向上に寄与する新たな知見を中部森林圏から発信することを目的として、日本森林学会中部支部を発展的に解散し、新たな学会として、中部森林学会をここに設立することとしました。新たな学会のもとに、より多くの会員が集い、活発な情報の発信と共有を行っていくことにより、中部森林圏のより良い未来が開けることを期待しています。

2011年4月1日
中部森林学会 役員候補者一同